

## メタデータを考慮した地球惑星科学データフォーマット

### Data format for earth and planetary science in view of metadata handling

# 寺園 淳也 [1]

# Junya Terazono[1]

[1] 会津大

[1] Univ. of Aizu

<http://www.terakin.com/ja/>

科学データにおけるメタデータの取り扱い、地球惑星科学だけに限らず、様々な科学コミュニティで議論となっている。地球惑星科学においても、メタデータの観点は重要と考えられる。特に、

- ・どのようなデータを称してメタデータとするか、という「定義」
- ・メタデータの効率的な扱いの枠組み

を定めていくことが重要であり、これらは今後、大量のデータを扱うことになる地球惑星科学においてよりいっそう重要であると考えられる。

現在、この分野で使われているデータフォーマットには、惑星科学分野での PDS、流体力学分野を中心とした NetCDF、天文学を中心とした FITS などがあるが、いずれも「ヘッダ+データ」という非常に基礎的かつ古い枠組みであり、メタデータのような柔軟な構造のデータを取り入れられるかどうかは非常に難しい。

一方では、XML などの新しいデータ記述言語を利用したデータ構造を提案する動きも各所で見受けられる。XML はデータ記述言語として柔軟性に富み、メタデータなどの記述に際しても有用と考えられるが、一方で既存の膨大なデータとの整合性の確保や、将来の拡張性に際しての問題点を考えなければならない。

本講演では、「データは科学者が容易にアクセスできることを念頭としなければならない」というポリシーを前提として、メタデータに配慮しつつ、過去のデータなどとも整合性があるフォーマットについて、その方向性を議論する。